

令和7年度 友渕中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 友渕中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
		国語	数学	国語	数学	理科	
3年 4月17日	学校	241	56	53	6.4	9.7	511
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	489
全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	503	

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)					
		国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語	
3年 9月2日	学校	246	67.9	55.0	59.3	49.2	64.5	6.0	5.3	10.0	8.5	4.8
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4	
2年 1月14日	学校	236	69.2	49.7	62.1	51.2	58.2	6.2	5.8	9.6	4.0	6.2
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6	
1年 1月14日	学校	222	67.5	63.7	65.1	70.1	74.4	9.8	2.8	7.2	3.4	3.1
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.6	4.1
大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9	

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日	生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】	
		(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	
3年 10月9日	学校	233	132.4	124.8	175.7	118.0
大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4	

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点	
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)	
2年 男子	学校	220	28.50	27.63	48.51	49.69	77.51	423.18	8.03	200.13	20.82	41.84
	大阪市	—	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	—	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.35	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	—	23.02	22.50	47.98	42.86	45.93	—	9.04	172.07	11.03	45.90
	大阪市	—	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	—	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	—	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	—	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 友淵中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●全国学力・学習状況調査

全体の平均正答率では、国語は56%で大阪市平均を4ポイント、全国平均を1.7ポイント上回った。平均無解答率は、大阪市平均から0.4ポイント、全国平均から0.3ポイント下回った。数学は53%で大阪市平均を7ポイント、全国平均を4.7ポイント上回った。平均無解答率は、大阪市平均から1.5ポイント、全国平均から0.9ポイント下回り、積極的に回答する姿勢が見えた。理科の平均IRTスコアは511%で、大阪市平均を22ポイント、全国平均を8ポイント上回った。

●中学生チャレンジテスト(3年生)

各教科の平均点は、国語は67.9点で大阪市平均を3.1点、大阪府平均を3.7点上回った。社会は55.0点で大阪市平均を3.5点、大阪府平均を3.8点上回った。数学は59.3点で、大阪市平均を5点、大阪府平均を5.4点上回った。理科は49.2点で大阪市平均を2.7点、大阪府平均を3.2点上回った。英語は64.5点で大阪市平均を10.1点、大阪府平均を11.3点上回った。

●大阪市英語力調査(GTEC)(3年生)

「読むこと」は132.4ポイントで大阪市と比較して15ポイント上回った。「聞くこと」は124.8ポイントで大阪市と比較して14.6ポイント上回った。「書くこと」は175.7ポイントで大阪市と比較して29.3ポイント上回った。「話すこと」は118.0ポイントで大阪市と比較して19.6ポイント上回った。

●中学生チャレンジテスト(2年生)

各教科の平均点は、国語は69.2点で大阪市平均を4点、大阪府平均を4.7点上回った。社会は49.7点で大阪市平均を4.7点、大阪府平均を5.4点上回った。数学は62.1点で、大阪市平均を6.1点、大阪府平均を7.1点上回った。理科は51.2点で大阪市平均を3.3点、大阪府平均を4.5点上回った。英語は58.2点で大阪市平均を5.8点、大阪府平均を6.4点上回った。

●中学生チャレンジテスト、チャレンジテストplus(1年生)

各教科の平均点は、国語は67.5点で大阪市平均を4.2点、大阪府平均を4.4点上回った。社会は63.7点で大阪市平均を5.4点上回った。数学は65.1点で、大阪市平均を7.5点、大阪府平均を8.4点上回った。理科は70.1点で大阪市平均を7.1点上回った。英語は74.4点で大阪市平均を7.9点、大阪府平均を9.2点上回った。

●全国体力・運動能力、運動習慣等調査(2年生)

体力合計点については、男子は41.84点で大阪市平均を0.15点上回ったが、全国平均は0.36点下回る結果となった。女子は45.90点で大阪市平均を2.24点、全国平均を1.68点を下回る結果となった。男子の各調査項目では、測定した9項目中、全国平均を4項目、大阪市平均は6項目上回った。女子は、測定した8項目中、全国平均を3項目、大阪市平均は2項目上回った。

【今後に向けて】

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙結果において、「先生に良いところを認められていると感じている」の質問事項では、肯定的に回答している生徒の割合が全国よりも0.4ポイント高い。一方で、「自分自身に良いところがあると感じている」の質問事項で肯定的に回答している生徒の割合は、全国と比べて3ポイント低くなっている。今後は、生徒の自己肯定感を高めていくために学校生活の中で友淵中学校グランドデザイン(挑戦心・利他心・自律心)の取組をより一層、実現するために工夫していきたい。

また、ICT機器の活用において、PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することやインターネットを使って情報を収集すること、図やグラフ等のICTを活用してまとめる力については、全国、大阪市と比べても低い。今後も、継続して学習者用端末をはじめとするICT機器の活用を学校全体で推進していく。